

2021年6月7日

あおぞら投信株式会社

「キラキラと 光る延べ棒 手に重く

銅の伝導 地の中走る」

様々な市場において資産価格の変化を捉えるとき、株式市場、債券市場などの金融市場と並んで、商品市場があります。商品の中でも原油、トウモロコシなどと並んで金属のカテゴリーがあります。ここには、金属の中心である鉄・非鉄金属の銅・亜鉛・アルミニウム等のベースメタルや、金・銀などの貴金属、さらにレアメタルと呼ばれる金属まで存在します。レアメタルとは「地球上の存在量が稀であるか、技術的・経済的な理由で抽出困難な金属のうち、安定供給の確保が政策的に重要（経済産業省）」で、スマホなど多くの産業に利用されるケースが多い希少な非鉄金属を指し、リチウム、チタン、クロム、コバルトなどがあります。この金属の中でも、インフレと繋がられることの多いのは、金と銅ではないでしょうか。

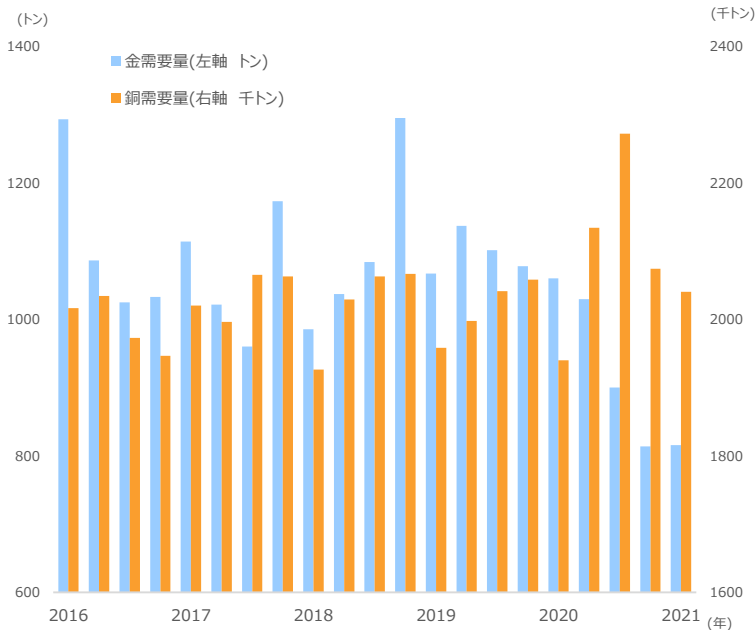
金そのものへの需要は宝飾品が最大ですが、それに並ぶのが投資対象としての需要です。それ以外には工業用があり、中央銀行の準備金運用としての位置づけもあります。この金価格は金本位制の時とは異なり、通貨の裏付けではありません。株式や債券と異なり、配当や利払いのない金の価値はそのものだけであることが特徴です。それゆえに、インフレヘッジというよりは、株式市場との相関を考えての逃避先として位置づけられることもあります。インドの結婚式では大量の金が贈られる習慣が残るなど、金融市場への信用よりも金という実物を志向する社会も需要を生んでいます。一方、非鉄金属の代表である銅はSDGsの主役です。再生可能エネルギー発電や蓄電池、電気自動車、スマートグリッドなどへの需要が銅の使用量全体の約20%を占めると言われています。銅はアルミニウムの約2倍の導電性を持つので、地下の送電線の材料にも多く用いられるのです。従って銅価格の推移は、今後の社会の変化のスピードを示しているとも言えます。市場は今後の人の動きを示唆するという意味でも、広く目を配ることが大切なのです。

柳谷俊郎

金・銅価格推移(2020年6月~2021年5月)



金・銅需要量推移(2016年第1四半期~2021年第1四半期)



出所：Bloomberg・World Gold Councilのデータに基づきあおぞら投信が作成。

本資料は情報の提供を目的としており、何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、本資料作成日現在の当社の見解であり、事前の予告なしに変更される事もあります。投資信託の取得に当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。

商号：あおぞら投信株式会社 金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第2771号
 加入協会：一般社団法人投資信託協会 ホームページ・アドレス：<http://www.aozora-im.co.jp/>